

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
(仮称)広島市安佐南区祇園3丁目新築工事

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		3.4	0.15	3.0	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1	暗騒音レベル	住宅地として標準レベル	3.0	1.00	3.0	1.00		
	設備騒音対策							
1.2 遮音		4.0	0.40	3.5	0.40			
1	開口部遮音性能	住居部AWIはT-2使用	4.0	1.00	3.0	0.30		
2	界壁遮音性能	住居部はDR-50以上			4.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr=45以下			4.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20		
1.3 吸音		和室は畳敷きとしている	3.0	0.20	2.0	0.20		
2 温熱環境			2.6	0.35	3.7	1.00		3.5
2.1 室温制御			2.6	0.50	3.7	1.00		
1	室温設定	住宅として標準	3.0	0.63	3.0	0.63		
	夏期室温制御							
3	外皮性能		2.0	0.38	5.0	0.38		
4	ゾーン別制御性							
	夏期室温制御							
	冬期室温制御							
	換気設備の設置							
	換気設備の性能							
	換気設備の制御							
	換気設備のメンテナンス							
2.2 湿度制御			2.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		ロビ-等共用部にヒートポンプ冷暖房を設置	3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			3.0	0.25	4.0	1.00		3.8
3.1 昼光利用			4.2	0.30	4.0	0.50		
1	昼光率	共用部昼効率8%、住居部昼効率10%	5.0	0.60	5.0	0.50		
2	方位別開口							
3	昼光利用設備	昼光利用設備がない	3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			2.0	0.30	4.0	0.50		
2	昼光制御	住居部はカーテン、庇の2種類	2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度			3.0	0.15	-	-		
1	照度	住宅共用部として標準	3.0	1.00	-	-		
3.4 照明制御		室及び区画単位制御	3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境			3.2	0.25	3.6	1.00		3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63		
1	化学汚染物質	全ての内装材にF☆☆☆☆等級と判断された材料を使用。	4.0	1.00	4.0	1.00		
	化学汚染物質							
	化学汚染物質							
	化学汚染物質							
4.2 換気			2.0	0.40	3.0	0.38		
1	換気量	ケストルーム:必要換気量の5.02倍。居室D必要換気量の1.26倍。	3.0	0.50	3.0	0.33		
2	自然換気性能	Dタイプリビングダイニング0.34≧1/6			5.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理								
1	CO ₂ の監視							
2	喫煙の制御							
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-		3.4
1 機能性			1.8	0.40	4.2	1.00		3.8
1.1 機能性・使いやすさ			1.0	0.60	5.0	0.60		
1	広さ・収納性							
2	高度情報通信設備対応	各住戸にLAN設備あり			5.0	1.00		
3	バリアフリー計画		1.0	1.00				
1.2 心理性・快適性			3.0	0.40	3.0	0.40		
1	広さ感・景観				3.0	0.50		
2	リフレッシュスペース							
3	内装計画	事前のパース等によるシュミレーション等	3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計							
2	維持管理用機能の確保							
2 耐用性・信頼性			3.4	0.31				3.4
2.1 耐震・免震			3.0	0.48				
1	耐震性	建基法通り	3.0	0.80				
2	免震・制振性能	免震なし	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			4.1	0.33				
1	躯体材料の耐用年数	性能評価劣化対策等級等級3該当	5.0	0.23				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	コンクリート打放しの上45二丁磁気タイル貼40年	5.0	0.23				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	亜鉛メッキスパイラルダクトの採用	3.0	0.08				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上B以上を使用、Eを不使用	5.0	0.15				
6	主要設備機器の更新必要間隔	黒ガス管は使用しない	3.0	0.23				

2.4 信頼性			3.2	0.19		-	-
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用、系統の分離	4.0	0.20		-	-
3	電気設備	電源設備は地下にない	3.0	0.20		-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA以上の記述	4.0	0.20		-	-
5	通信・情報設備	光ケーブル設置、浸水の危険性がない	4.0	0.20		-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50	
1	階高のゆとり	2階階高2.91m			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性	スリーブは抜き替えによる再利用可	3.0	0.21		-	
2	給排水管の更新性	スリーブは抜き替えによる再利用可	3.0	0.21		-	
3	電気配線の更新性	スリーブは抜き替えによる再利用可	3.0	0.14		-	
4	通信配線の更新性	スリーブは抜き替えによる再利用可	3.0	0.14		-	
5	設備機器の更新性	入替可能なスペースへの設置	3.0	0.29		-	
6	バックアップスペース		-	-		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		都市美協議書参照	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30		-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	IV駐車台数144台≧[144*4/10=57台]、防犯カメラの設置あり	4.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率75.7%、緑地ビロイ等の水平投影面積が49.7%	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物の熱負荷抑制		高性能断熱材と複層ガラスを使用	5.0	0.40		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	片廊下形式住戸	3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	ソーラーパネル設置	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		エコキュート、LED照明	5.0	0.40		-	5.0
4 効率的運用						-	-
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水型水栓を採用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	仕組みなし	3.0	1.00		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無					-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63		-	3.0
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存躯体利用はない	3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用、床長尺塩ビシート	4.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	取組なし	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22		-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	防水工事のプライマー	5.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68		-	
1	消火剤	ABC粉末消火器のみ	4.0	0.33		-	
2	断熱材	ペンタン、炭酸ガスによる発砲	5.0	0.33		-	
3	冷媒	R407C、R410Aの採用	3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCo2=93%	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮			2.6	0.33		-	2.6
2.1	大気汚染防止	燃焼器具はコンロ及び給湯器のみ	3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制	排水協議済み	3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	バイク・自転車置場303台、駐車場144台、出入り口を分散配置	5.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	中高層ゴミ協議済み	3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音	騒音源がない	3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たしている、広告物照明無し	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	外壁面における反射ガラスの面積は小さく又、低反射の物を採用	3.0	0.30		-	